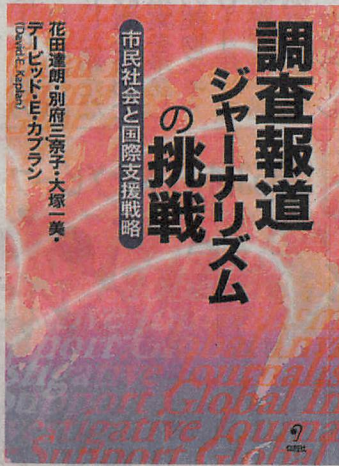


# 調査報道へ願い込め

## 近着図書

☆「調査報道ジャーナリズムの挑戦」花田達朗、別府三奈子、大塚一美、デービッド・E・カプラン著

2016年は調査報道の存在があらためてクローズアップされた年だった。その代表例が、世界中の政治



花田達朗 別府三奈子 大塚一美  
デービッド・E・カプラン  
David E. Kaplan

**調査報道  
ジャーナリズム  
の挑戦**  
市民社会と国際支援戦略

に立とうとしたところに注目すべき」と著者の一人で早稲田大ジャーナリズム研究所長を務める花田教授(メディア研究)は語る。

この本にはそんな調査報道ジャーナリズムが日本でも活発になってほしいとの願いが込められている。

花田教授によると、本来、調査報道ジャーナリズムとは探偵のように謎の中に入り込み、真実を明らかにしていく作業であり、「調べる」より「探す」行為に近いことから「探査ジャーナリズム」と呼ぶべきと提言する。

童への性的虐待を告発した同紙のドキュメントもの。「教会の背後にある地域社会全体を敵に回す恐れがあったとしても犠牲者の立場

その上で「グローバルな(探査報道の)ムーブメントに日本のジャーナリストは立ち後れている。特に今日の日本の政治状況を見る

見るとき、日本のジャーナリストは何かを始めなければならぬのではないかと訴える。

旬報社、18336円。  
(斉藤光政)